

＜2021年3月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答＞

日時 : 2020年11月2日(月) 13:30~14:30

出席者 : 取締役社長 貸谷 伊知郎

CSO/CDTO 富永 浩史

CFO 岩本 秀之

Q. アフリカ本部の2Q(3カ月)売上総利益は前年同期比で増益に転じている。この背景を教えてください。またこの利益水準はそのまま下期も継続するのか、そう考えるのはリスクがあるのか教えてください。

A. 前年同期と大きく変わっている点は、前年下期に南アフリカのユニットランスを買収したこと。このほか薬関係等のビジネスがこのコロナ禍の中にあっても、堅調に推移したこと、飲料やリテールは前年同期と比べると改善した。下期は、コロナのロックダウンがなければ、ある程度利益は見通せると思っている。

Q. ユニットランスの営業利益は上期でどれくらいなのか？

A. 南アフリカでのロックダウン影響があり、売上総利益で約70億円、営業利益では約▲10億円となった。

Q. 23/3期当期利益計画1,500億円について、コロナ前の20/3期は1,355億円で、一過性損益を除くと1,400億円ぐらい。この1,400億円と23/3期の1,500億円と比較したときにどういう形で1,500億円に向けて積上がっていくのか教えてください。

A. 23/3期に向けて売上総利益が毎年5~6%で増えていくと想定している。これは経済成長率や自動車生産台数の増加によるものである。一方、従来、売上、売上総利益に比例して増加する販管費はコロナ次第だが、従来水準に戻らないように見ており、そのように経営をしていく必要があると考えている。またアフリカではユニットランスの要因がある。

Q. 中計資料のP11、再生可能エネルギー発電状況について21/3期にグロス発電量3,500MWが見えている。今後どのくらいの発電量で、どれくらいの利益を計画しているか教えてください。

A. 現在の案件が2年後に発電が開始されるか、どうか。例えば、北海道案件は23/3期開発途中。中計の1,500億円にも織り込んでいない。

Q. アフリカ本部は 2Q 累計で当期利益 24 億円だが、下期の見通しをもう少し詳しく教えて欲しい。

A. 1Q は落ち込んだが 2Q はその反動もあり、回復した。また、販管費は 1Q で抑えたというより、結果的に使わず、2Q も継続した。CFAO の自動車以外は赤字が改善し、リストラの効果も大きく出ている今の 2Q が通常の姿とみている。3Q-4Q は何もなければ、同水準の業績になるとみている。

Q. 売上総利益が良かったのか、販管費を減らしたのか。自動車・自動車以外でどうなのか？

A. 南アフリカの自動車が想像よりも早く戻った。数字的には南アフリカの自動車が大きい。

Q. アフリカでのスズキの案件は収益性が期待できるのか。自動車販売以外にメリットがあるのか教えて欲しい。

A. インド製のスズキの車、これはスズキのバレーノをトヨタブランドのスターレットという名前でアフリカ市場に導入していくことが決まっている。すでに 10 年ほど前からスズキブランドの車は CFAO で売っており、現在、それが数千台規模までになってきている。そこにスズキ車をトヨタバッジで売っていく。伸びつつある中間所得層等をトヨタブランドで捕捉できていなかったのが確実にニーズをとらえることができるのではないかと思っており、できるだけ早くアフリカ全土で売れるようにマーケティングしていく。新車だけでなく、部品やアフターサービスも加わり、トレードインという形で中古車ビジネスにも入っていけるとみている。

Q. 中計資料の P5、地域別の収益回復シナリオについて 2Q でどの地域が上振れしているのか教えて欲しい。また通期で豪亜、新興地域を下げている理由は？

A. 1Q での想定が上段のパーセンテージ。その下の矢印が現時点の想定。2Q の東アジアは想定通り、それ以外は全て上振れ。ピークが 4Q に向かうと想定していたが、現時点では 2Q-3Q になっている。

豪亜、新興地域は慎重に見ている。インド・インドネシア・タイを中心に回復が遅い。特にタイは政情不安もある。一方、新興地域コロナ禍のおさまりが見えないところがあり、回復には時間がかかると見ている。

Q. アフリカ本部の 2Q(3 カ月)当期利益は 50 億円を超えており、このまま 3Q-4Q も同じように利益がでるならば、通期で 200 億円になると予想され、23/3 期に大きく貢献すると考えてよいのか？

A. 当期利益 54 億円は 1Q の反動も含まれており、2Q では業績が戻ったとみている。3Q-4Q は伸びるというより、1、2 年前の水準に戻ったところに南アフリカのユニットランス買収が加わってくるというようなイメージ。

Q. アフリカ本部では2Qに利益がどのくらい戻ってきたのか。このまま3Q-4Qも同じように推移するのか？

A. 日本からの輸出も含まれているが、1Q売上総利益が272億円、2Qのそれが404億円、1Q当期利益が▲30億円、2Qのそれが54億円。売上総利益と費用がどのように関連しているのか分析中だが、結果としてはこうなっている。コロナのロックダウンがなければ、ある程度の利益が見通せると思っている。

Q. 中計策定にあたっての自動車生産台数を教えて欲しい。

A. トヨタさんの生産台数については我々がコメントすべきものではない。また、生産台数の影響はトヨタ車だけでは測れない。我々のビジネスに関係する台数は23/3期には最高水準まで上がってくるとみている。

Q. 収益の季節要因を教えて欲しい。

A. 過去は、配当金を除くと、特に機・エネのユーラスでは冬に風況が良く収益が上がっていた。最近は太陽光も始め、夏と冬の平準化が図られてきている。それ以外の事業もバランスがとれてきており、昔ほど、季節要因の差がなくなっていると考えている。

以上